

UEFA 欧州選手権 2012 におけるゴールパターン The pattern of goal scenes in UEFA EURO 2012

1K09B163

畑尾 大翔

指導教員 主査 堀野博幸 先生

副査 石井昌幸 先生

【目的】

サッカーの得点が生まれる場面は、得点の数だけ多くのパターンがあり、二度と同じような状況は生まれないと言って良い。しかし、その得点場面も、ある点に注目すると、いくつかのパターンに分類することができる。

そして本研究では、ボール奪取からゴールに至るまでに要した時間、ゴールに至るまでに要したパス本数アシストした選手のタッチ数、ゴールを決めた選手の状況と様々な角度から UEFA 欧州選手権 2012 ポーランド・ウクライナ大会の得点シーンを検証する。これらを判断材料として、どのような攻撃から多くのゴールが生まれているのかを分析することを目的とする。

【方法】

1. 研究対象

UEFA 欧州選手権 2012 ポーランド・ウクライナ大会の全 31 試合で生まれた 76 ゴールを対象とする。

2. 分析手順

DART FISH Team Pro (ダートフィッシュ・ジャパン) を用い、2012 年 6 月 8 日から 7 月 1 日に、日本国内で TV 放送された UEFA 欧州選手権 2012 ポーランド・ウクライナ大会の試合の VTR を利用し、ゴールシーンを抽出した。抽出した映像を、ボール奪取時点、もしくはアウトオブプレー開始時点から、ゴールに至るまでの過程の各項目を分析した。

3. 分析項目

1) ボール奪取ゾーン、2) ボールを奪った方向、3) ボール奪取・インプレーからゴールまでに要した時間、4) ゴールに至った攻撃のパス回数、5) アシスタント (アシストした選手) について、6) 得点者について である。

【結果】

1) ボール奪取ゾーン

ボール奪取から攻撃が始まった得点のうち、約 60% がミドルサードでのボール奪取であった。

2) ボールを奪った方向

横向き、後ろ向きに比べて前向きが圧倒的に上回った。

3) ボール奪取・インプレーからゴールまでに要した時間

ボールを奪ってから、1-15 秒の総ゴール数が 31 ゴールと約半数を占めた。

4) ゴールに至った攻撃のパス回数

本研究では、パス回数に大きな差異は見られなかった。

5) アシスタント (アシストした選手) について

使用した技術では、クロスとパスが圧倒的に多かった。タッチ数は、1 回もしくは 2 回が全体の約半数を占めた。アシスタントの位置は a~h までばらつきがあった。6) 得点者について

タッチ数では、1 タッチでのゴールが 45 ゴール、2 タッチでのゴールが 17 ゴールと約 9 割を占める。身体の向きは、前と横がそれぞれ 44 ゴールと 28 ゴールであった。シュートを打った際の状況では、ゴールキーパーとフィールドプレーヤー 1 人の時が最も多かった。得点者の位置は b と c が圧倒的に多い。

【考察】

各項目データで最も多かったデータから見ると、今大会では、前向きにボールを奪い、時間をかけずに攻撃し、相手守備組織が整う前にシュートに至ったパターンが多かった。

ボール奪取から時間をかけずに得点に至ったパターンが多かった事を考えたら、カウンター攻撃による得点が多かったと言える。井上ら (1996) の研究においても、同様の結果が認められている。

しかし、本研究のボール奪取ゾーンと得点の関連性については、山中 (2011) にもあるように、強い関係性は見られなかった。また、吉村ら (2002) の、有効な攻撃の課程には、ドリブルが少なく、パスが多いとされているが、本研究ではその点は明らかにはならなかった。

【結論】

今大会のゴールパターンで最も多かった形は、カウンター攻撃であった。しかし、相手守備組織が整っている場合には、確実にボールポゼッションを行い、相手守備組織を崩していくパターンも見られた。相手の状況を確実に認識することができ、カウンター攻撃で攻めるのか、しっかりとボールポゼッションをして攻めるのか、この選択を正確に行うことができたとき、得点が生まれていたと言える。